

2012年の外交

毎日新聞

2012年(平成24年)1月11日(水)

世界

鼓動

田中 均

起こりつつある。本来なら、戦略性に富んだ能動的な外交が求められる時期だろう。

そこで、日本はどんな外交をしていくべきだろうか。日本の外交目標は、勢力バランスが大きく変化しつつある東アジアの中での、ウイン-ウイン関係の構築だろう。最大の課題は、中国とどう向き合うかである。台頭する中国を、地域にとっても好ましい存在とするためには、重層的な枠組みが必要となる。

基本はヘッジング(牽制)とエングージメント(関与)のバランスを保つことで、この二つの中核に日米関係がある。10年、20年先

多難な年こそ能動的に

2012年は、多難な年になりそうである。昨年末からの北朝鮮での権力継承に続き、今年は台湾での選挙、韓国での議会選挙及び大統領選挙、中国での共産党指導部の交代、ロシアの大統領選挙、そして米国では3日のアイオワ州党員集会で長い大統領選挙の火蓋が切られた。日本でも消費税増税を巡り、結局は総選挙にならざるを得ないだろうと予測する向きも多い。選挙は、各国をおしなべて内向き思考にするため、国際関係の大きな進展は望めず、むしろ難しくなる。

しかし、東アジア地域では中国の飛躍的台頭と攻勢、これに呼応した米国の新戦略の導入、北朝鮮の権力継承問題など重大な変化が

を見越して日米関係を再確認しておくことは、地域の将来に大きな重要性をもつ。野田佳彦首相は4月には訪米するだろうが、その際、日米首脳間で明確な共同声明を出すべきだろう。そこでは、いくつかの課題のクリアが重要だ。

まず、普天間問題は、新たな戦略環境(米国防予算の削減の影響も含む)の下で、米軍の前方展開のあり方や自衛隊の役割強化を含めて改めて検討すると合意すべきである。中国との信頼醸成の枠組みも、あらかじめ米中と話を詰めておくべきだ。環太平洋パートナーシップ協定(TPP)は、米

国との事前協議を通じて交渉参加を確定しておかねばなるまい。この北朝鮮問題についてはどうか。



画・onyx

権力継承は、多大なリスクを生むと共に、一つの機会でもある。先軍政治という体制では、軍を固められれば権力の継承は順調に進むと考えられる。しかし、権威は簡単に構築できるものではない。金正恩氏の名の下に軍の意向と異なる決定をするのは、当面難しいだろう。いずれにせよ、軍を含めて、新しい体制が前政権より柔軟な路線をとるよう、外部環境を整える努力を続けるべきだ。

現時点では、関係諸国間に、北朝鮮が近隣諸国を巻き込んで混乱するのはあまりにもコストが高いので避ける、北朝鮮が政策を変えてソフトランディングすることが望ましい、といった方向で共通利益が存在している。従って、万が一の事態に備えた危機管理計画を、日米韓で、必要に応じて中国を巻き込む形で整備すべきである。さらに、日米韓中口の5カ国が十分連携し、改革開放に舵を切ることが北朝鮮の生存には必須だと、中国を通じ静かな働きかけをすべきである。

東アジア地域には、さまざまに深刻な問題が横たわっている。だが、繁栄の展望も大きい。能動的な外交の展開によってのみ、この地域の繁栄の展望を確実にしていくのだと思う。

(たなか・ひとし) 日本総研国際戦略研究所理事長